



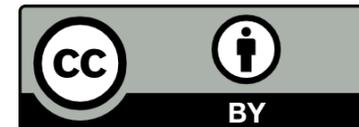
# 令和のOSSのゆくえ

～情熱とインフラのいい塩梅～

2026年2月28日

Open Source Conference 2026 Tokyo/Spring

# ライセンス表示 License



この資料は、独立行政法人情報処理推進機構により作成され、2026年に公開されました。

本資料の本文（テキストおよび当機構作成の図表等）は [Creative Commons 表示 4.0 国際ライセンス](#) の下で提供されています。

ただし、以下の素材については、本文ライセンスとは別に、各権利者が定めるライセンス条件が適用されます。

- CC BY-NC 2.5 素材
  - 商用利用不可
  - 改変可（ただし商用不可）国際版 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>
- CC BY-ND 4.0 素材
  - 改変不可（トリミング・色変更・合成等を含む）
  - 原形のまま再配布可<https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/>

各素材を再利用する際は、それぞれのライセンス条件をご確認ください。

特に、CC BY-NC 2.5 素材については、バージョンおよび準拠法にご留意ください。

This document was created by the Information-technology Promotion Agency, Japan (IPA) and published in 2026.

The main text of this document (including text and charts created by IPA) is provided under the [Creative Commons Attribution 4.0 International License](#).

However, the following materials are subject to license terms specified by their respective rights holders, separate from the main text license.

- CC BY-NC 2.5 Material
  - Commercial use prohibited
  - Modification permitted (but not for commercial use)International version <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>
- CC BY-ND 4.0 Material
  - Modification not allowed (including cropping, color changes, compositing, etc.)
  - Redistribution in original form allowed<https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/>

When reusing any material, please check the respective license terms.

Particular attention should be paid to the version and governing law for CC BY-NC 2.5 materials.

# 登壇者



いまむら かずき

今村 かずき

独立行政法人  
情報処理推進機構  
(IPA)



ふるかわ やすと

古川 泰人

株式会社MIERUNE



むとう しゅう

武藤 周

NECソリューション  
イノベータ株式会社

# セッション概要

エンジニアから沸き起こる「情熱」と「楽しさ」を源泉としたOSSが、いまや**社会インフラ**となりつつあります。

この大切な活動を、コミュニティとして**次世代へどうつなげていくか**  
…これは今、世界中の仲間が直面している共通の悩みでもあります。

本セッションでは、欧州での「デジタル主権」を巡る協働への模索をヒントに、「**OSSと社会**」のいい塩梅を一緒に探してみたいと思います。

# 本日のアジェンダ

1. アイスブレイク
2. わたしとOSS
3. わたしと世界
4. わたしと未来

# みなさんへ質問：OSCへの参加は何回目？

1. 会場参加/オンラインともに初参加
2. 会場参加は初めて（オンラインは参加したことがある）
3. 会場参加は2回目
4. 会場参加は3回以上

# わたしとOSS

# 武藤 周 NECソリューションイノベータ



Shu Muto

NEC Solution Innovators, Ltd.

Innovation Laboratory

Open Source Strategy Professional

今回の私の話は  
右の資料からの引用です。  
ご参照ください



[LF Japan Community Day](#)  
2025-10-22 発表資料より

2015 OpenStack Dashboard Plugins Maintainer

2019 Kubernetes Dashboard Maintainer (Jan 2026 Archived)

2019 SIG UI Chair

2019 Kubernetes Upstream Training Japan Organizer (KUTJ)

2023 CNCF Ambassador

2023 CNCJ Board、SIG KUTJ 代表、SIG Biz Organizer

2025 TODO OSPO Ambassador



@shu-mutou

株式会社 MIERUNE  
取締役・エヴァンジェリスト

# 古川 泰人

Code for Japan フェロー  
総務省 地域情報化アドバイザー  
国土交通省 地理空間情報課ラボ サポーター  
酪農学園大学 農食環境学群 客員講師



Yfuru2454



# わたしとOSS…

## アカデミア畑の端っこにいたわたしにとって 衝撃的なOSSとの出会い

1998年  
第一波



<https://www.r-project.org/>

2007年  
第二波



<https://qgis.org/>

# わたしとOSS…

## OSSコミュニティの仲間と 2016年に創業

「使う」⇒「創る」を目指している



# わたしと世界

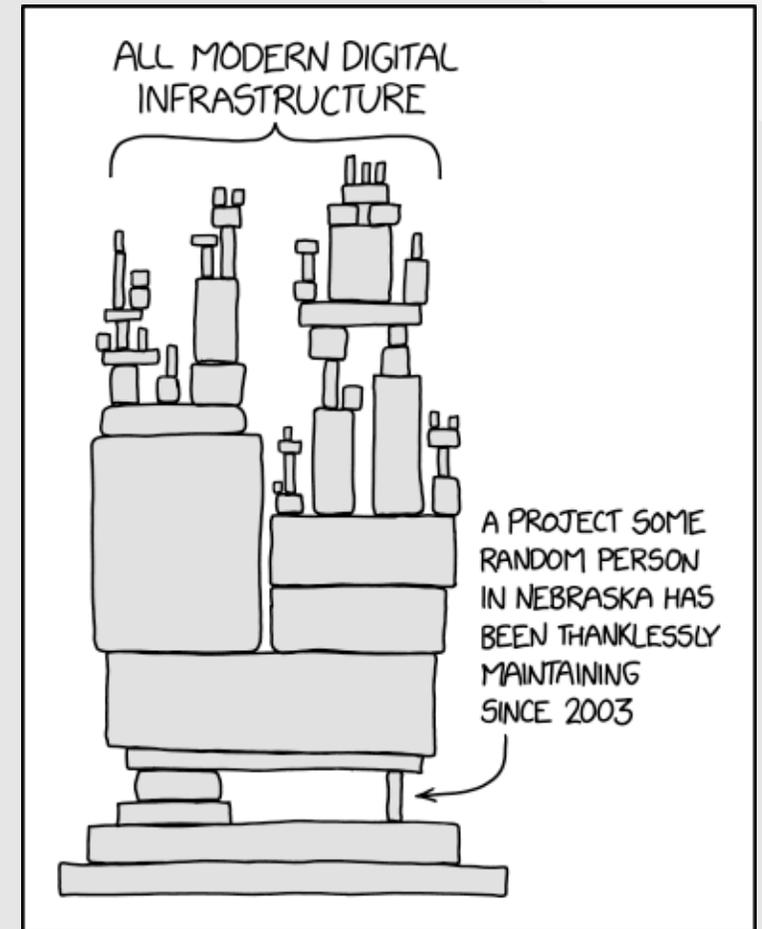
# OSSは技術主権と社会の安定を支える基盤であるが…

特定企業・特定国への依存は、**突然の値上げ・障害・サービス停止**といったリスクを伴う。

OSSは依存構造を緩和し、自律的に技術を維持し制御するための共通基盤。

しかし近年、**世界的にOSSプロジェクトやコミュニティの持続性が危ぶまれている。**

- 人材・資金・運営体制の脆弱化
- 政策・市場環境の変化による影響
- 社会インフラを支えるOSSへの過剰な負担



画像: "Dependency" by xkcd is marked with CC BY-NC 2.5. To view the terms, visit <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>.

# 欧州委員会によるOSS貢献の価値についてのレポート

Shaping Europe's digital future

Home | Policies | Activities | News | Library | Funding | Calendar | Consultations | AI Office

Home > News & Views > Commission publishes study on the impact of Open Source on the European economy

PRESS RELEASE | Publication 06 September 2021

## Commission publishes study on the impact of Open Source on the European economy

The Commission has published the results of a study analysing the economic impact of Open Source Software and Hardware on the European economy.

It is estimated that companies located in the EU invested around €1 billion in Open Source Software in 2018, which brought about a positive impact on the European economy of between €65 and €95 billion.

The study predicts that an increase of 10% in contributions to Open Source Software code would annually generate an additional 0.4% to 0.6% GDP, as well as more than 600 additional ICT start-ups in the EU. Case studies reveal that by procuring Open Source Software instead of proprietary software, the public sector could reduce the total cost of ownership, avoid vendor lock-in and thus increase its digital autonomy.

**OSS への投資は  
65~95 倍の ROI**

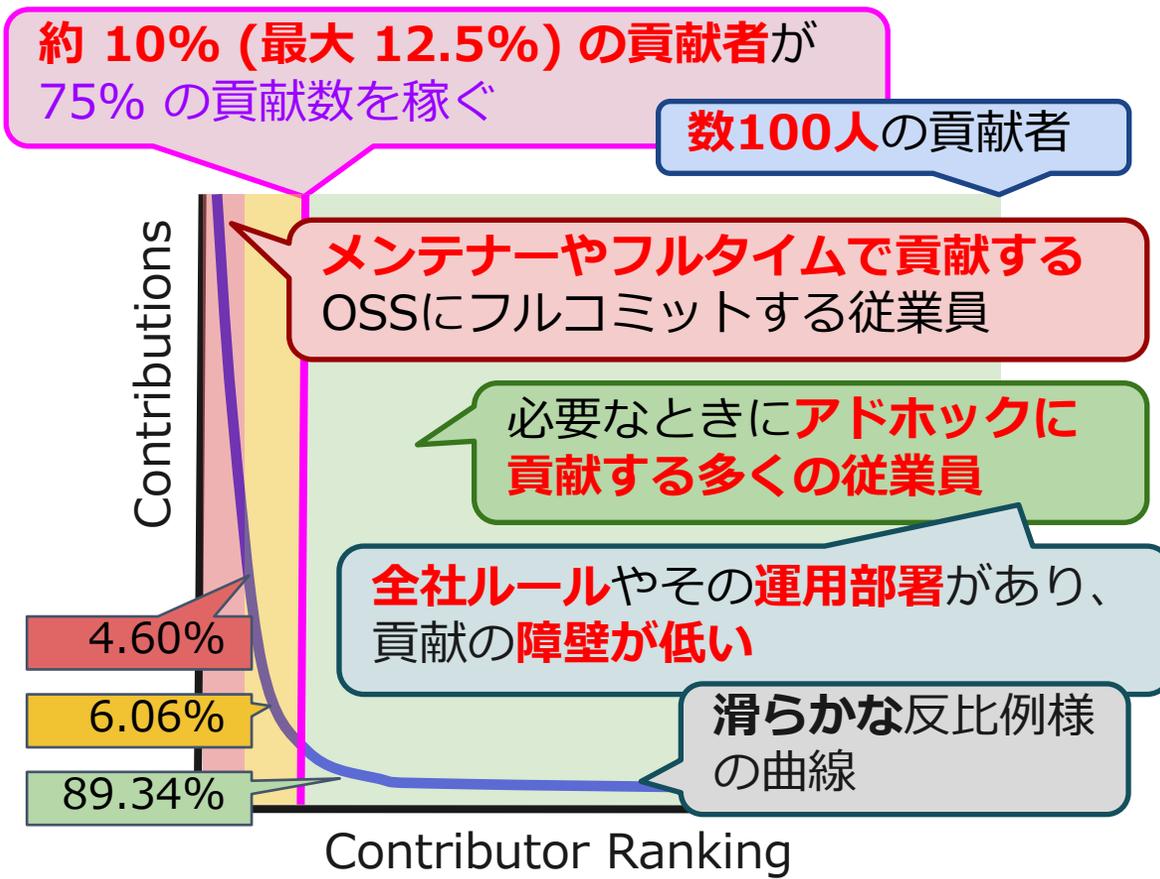
**OSS 貢献 10% 増で  
GDP 0.4~0.6 %増**

# CNCF 貢献数 Top 50 企業のうち、従業員1万人以上の大規模IT企業における 貢献者ランキング ⇨ 貢献レベルごとと貢献者タイプごとの貢献数の傾向と考察

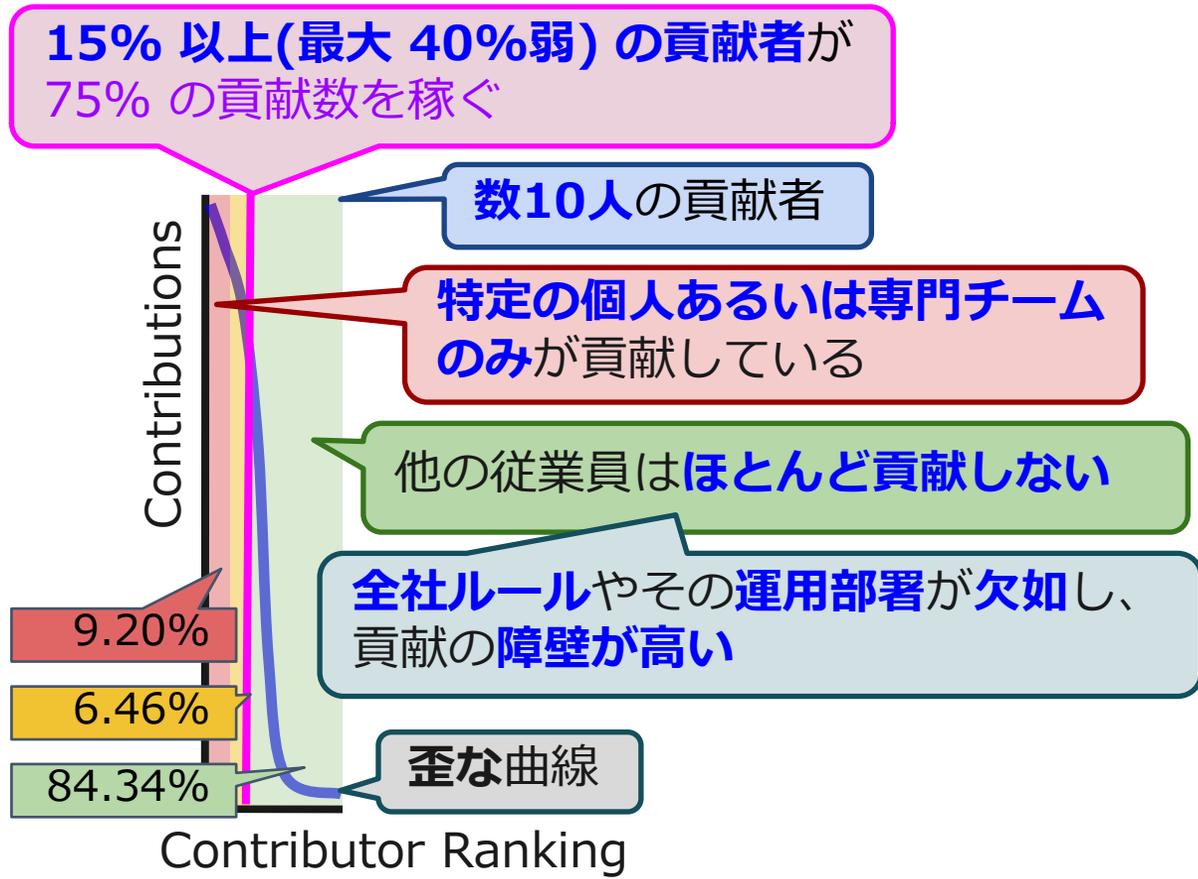
企業の貢献数の50%を稼ぐ  
トップ貢献者の割合

企業の貢献数の25%を稼ぐ  
アクティブな貢献者の割合

企業の貢献数の25%を稼ぐ  
アドホックな貢献者の割合



オープンソースの文化がある企業



オープンソースの文化が広まっていない企業

# わたしと世界…

同好の士が世界にいる発見  
もしOSSに触れていなければ  
どんなふつーの人生になっていたんだろうか 😞

## *My Keywords*

*GIS*  
*Ecological Science*  
*Civictech*  
*OpenData*  
*OpenSource*  
*OpenScience*

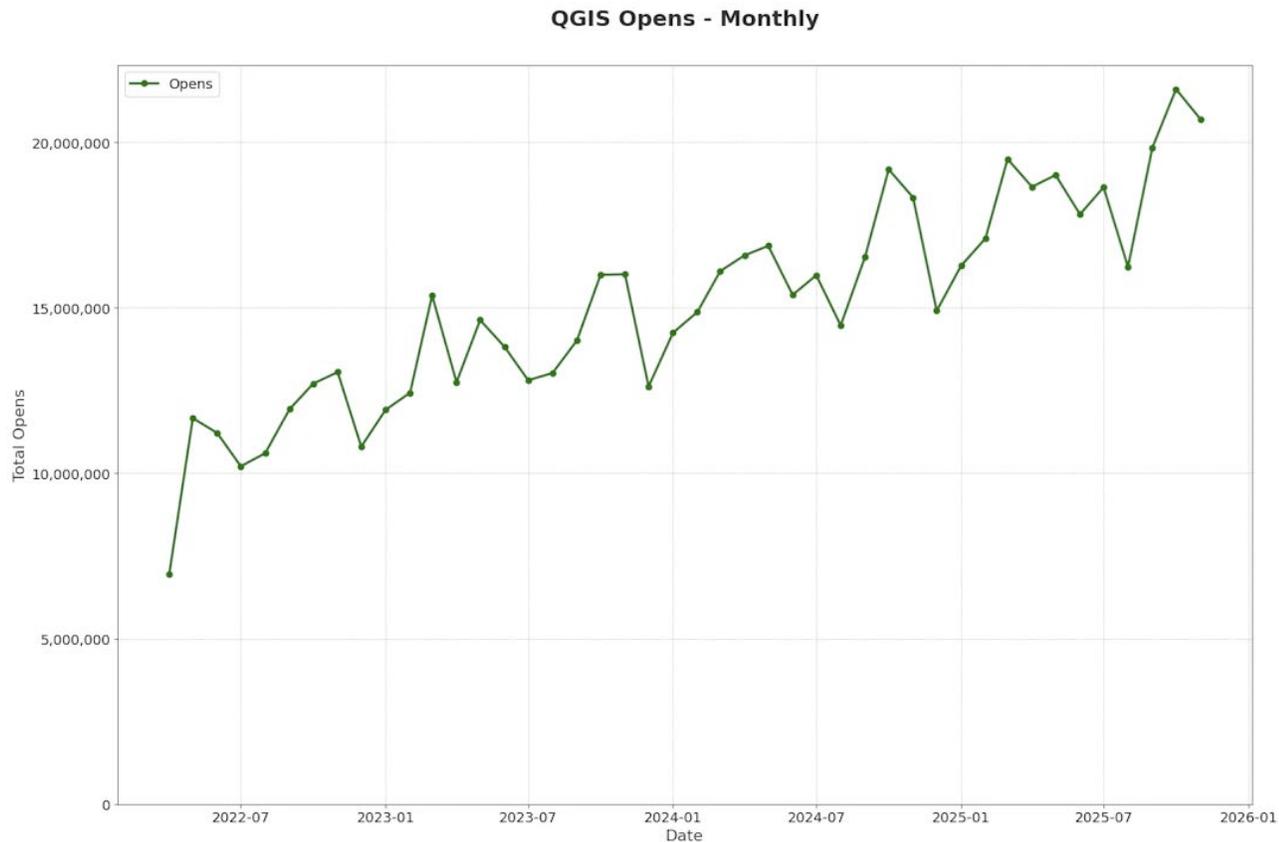
+ *Community*



[@Code for Japan Summit 2024](#)

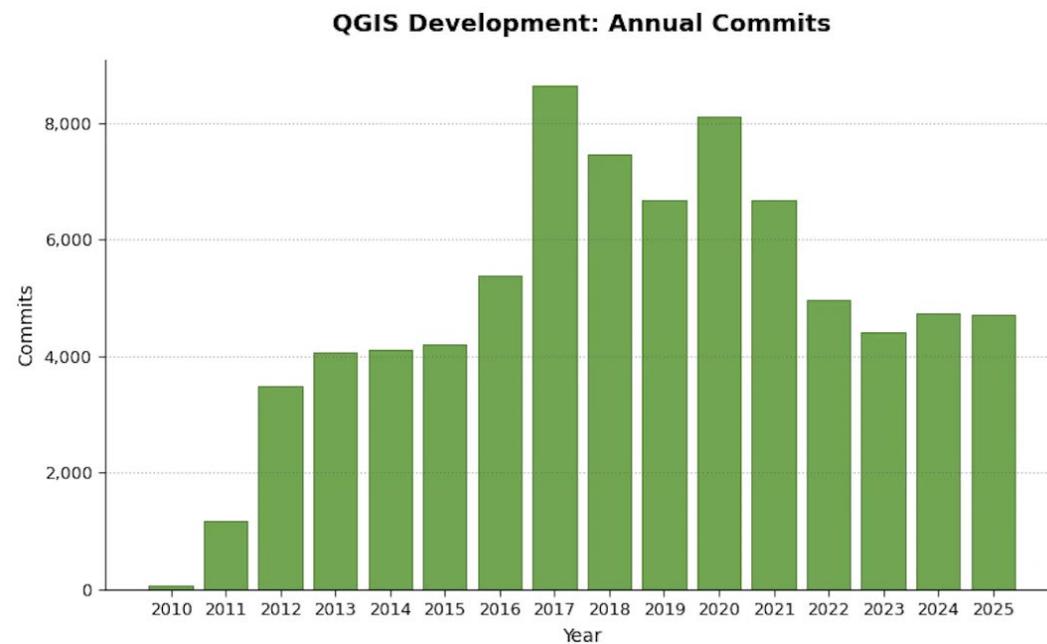
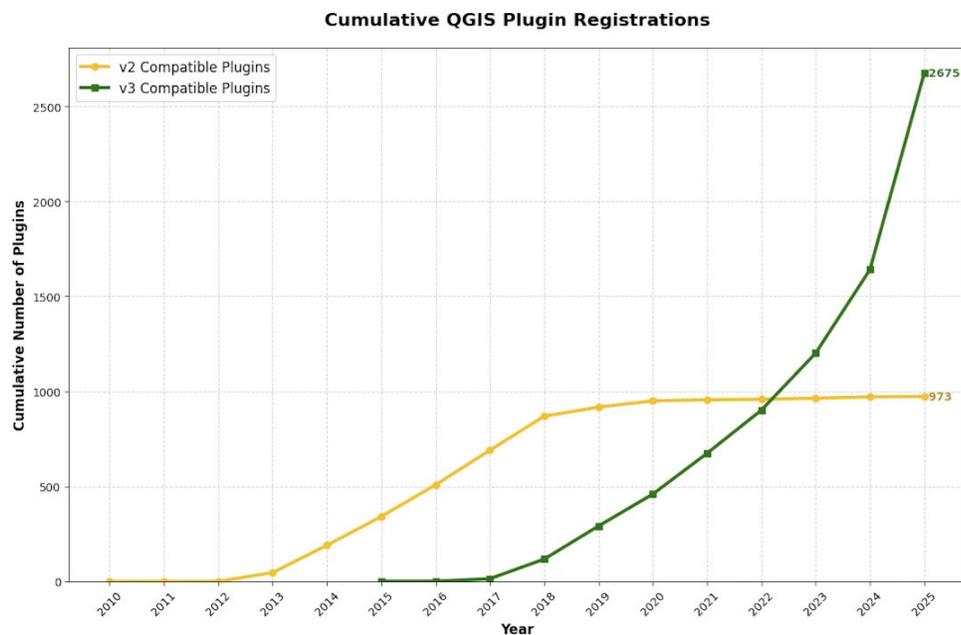
# わたしと世界…

**QGISの起動回数は世界的に増加傾向  
2025年は起動2億回(0.15秒/回)**



# わたしと世界…

QGISのプラグイン公開数はこの2年でハイペースに  
QGIS本体へのコミット数は減少傾向  
AI🤖の世界的影響？



# わたしと未来

# LF Research: The 2025 State of OSPOs and Open Source Management

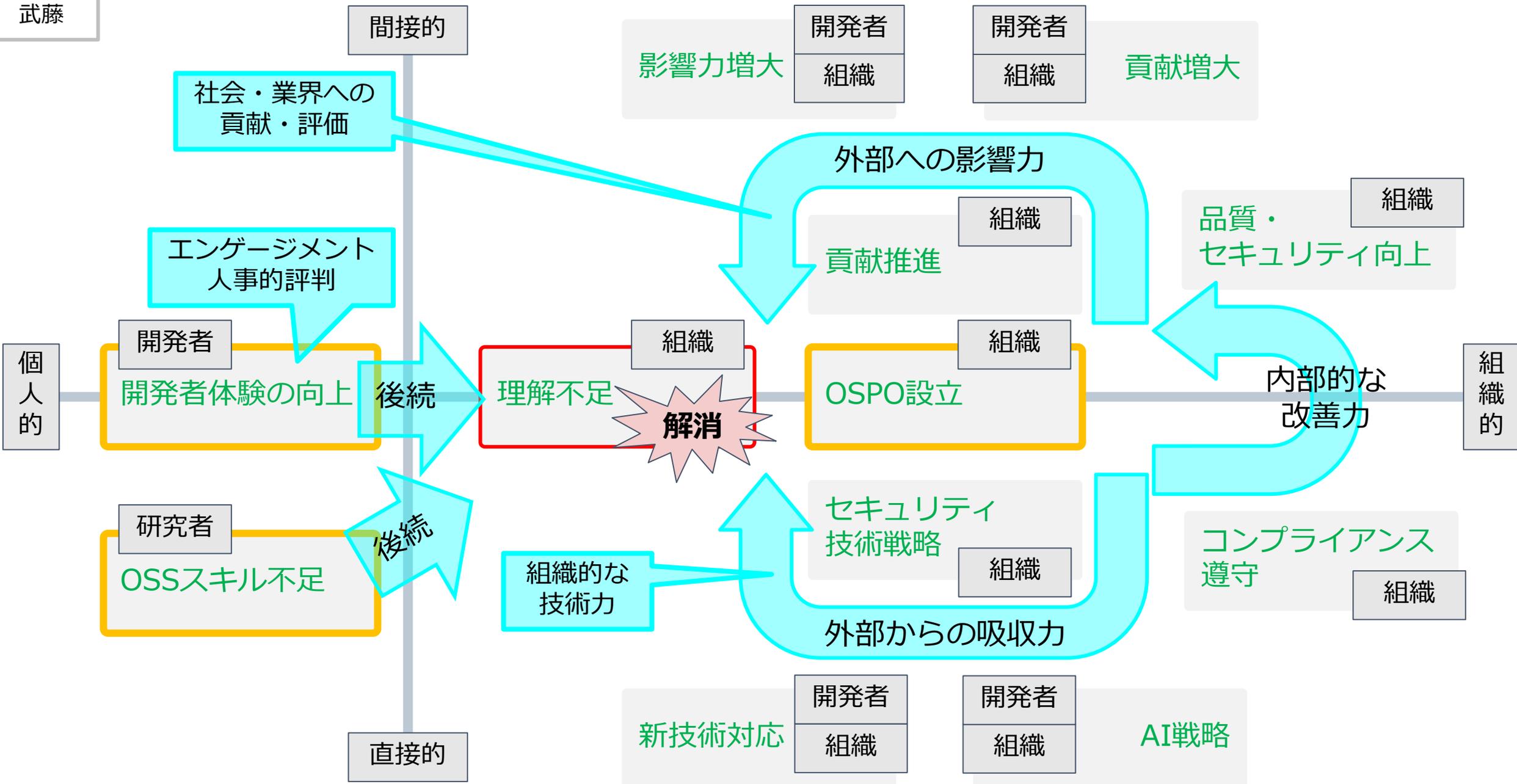
2025年8月公開

12のトピックス  
(INFOGRAPHIC)

OSPOの設立・運営において、  
どのような利点や困難があった  
のか

引用 : Bianca Trinkenreich and Adrienn Lawson, "The 2025 State of OSPOs and Open Source Management: Aligning with New Organizational Priorities," foreword by Yuichi Nakamura, The Linux Foundation, August 2025.





## 様々なコントリビューション

### バグ報告

- 課題は今すぐ投稿しましょう！



### ドキュメンテーション

- 実装への追従
- 翻訳



### パッチ投稿

- コード
- テスト



### コミュニティ活動

- イベント参加
- 社内コミュニティ
- ブログやSNSの投稿

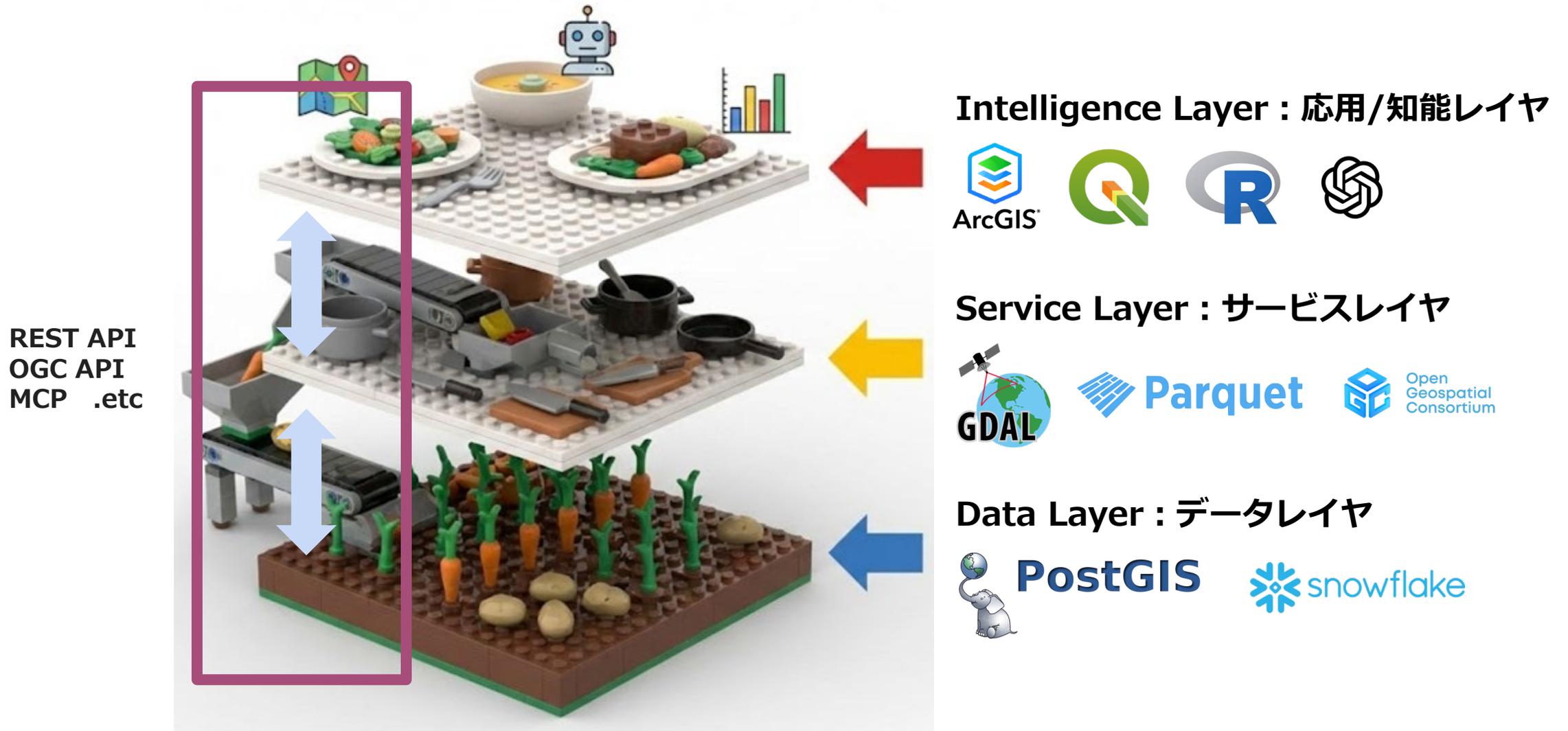


### OSPO 設立

- 組織的なオープンソース推進
- 社内ポリシーやルールの作成
- ベストプラクティスの共有
- コミュニティ支援
- エコシステムの成長



## 処理レイヤの選択性+オープンな接続性を考慮した構成も提案されている



## 先行事例：英国地質調査所の 主権的(Sovereign)観点による プロプラからOSSメインへのリプレイス計画(2021-)

> *Control and portability are my main arguments*  
> *for #opensource in #gis.*  
(GISにおけるオープンソースの核心は“自分たちで制御できること”と  
“持ち運べること”にある)

- 👉 現場ニーズ(現地調査ツール・PostGIS)への柔軟で素早い対応
- 👉 OSS自作ツールの公開による社会還元・科学への貢献
- 👉 Public Money, Public Codeの精神(公金を公益に)



参考：Fosstodon. <https://fosstodon.org/@volcan01010/115844699110534019>  
Merjin Maps. Open source geological mapping with British Geological Survey.  
<https://merjinmaps.com/case-studies/open-source-geological-mapping-with-british-geological-survey>

# OSSをめぐる歴史と成長の雑い理解一例

※尖ってたOSSパンク青年が、やがて家庭を持ち、いまは社会とのかかわりを実践している…というイメージ  
(もちろん全ての事象を示す意味ではありませんのでそこはご容赦を)

1980-90?  
Copyleft!



1990-2020?  
Co-opetition



2020-?  
Sovereign



# 「OSSコミュニティの四類型」説

## CLUBS (クラブ)

- ニッチだが尖っている
- 同好会型
  - 使う人が作る人、文脈が共有されやすい
  - 新規参入のハードル高
- 例 : Astropy/MAME/BioRuby etc.

ユーザー数 (低→高)

## TOYS (おもちゃ)

- 体験・学習・試作の段階
- 個人工作型
- 作者の興味関心ドリブン
- 「コミュニティ」化はこれから
  - 継続・保守体制は発展途上
- 例 : ほとんどのGitHubリポジトリ etc.

## FEDERATIONS (連邦)

- ユーザーも貢献者も成長し続ける
- 大規模協調型
  - 拡張/ドキュメント/運営が育ちやすい
  - 調整コスト/ガバナンス設計が常に必要
- 例 : Linux/Rust/Python/PostgreSQL etc.

## STADIUMS (スタジアム)

- 少人数の保守者に需要が集中
- 観客席型
  - 少ないプレーヤを大観衆が取り囲む
  - 参加は“利用・要望”が中心・貢献は少数
  - 殺到する要望にメンテナの負担が過大
  - 人気が出るほど燃え尽きやすい
  - 企業依存でも保守負担が個人に残りがち
- 例 : Homebrew/SQLite/Bootstrap etc.

貢献者数 (低→高)

# 今後の一例： 大規模OSSのコードレビューを支える開発者を OSS企業が有償契約で募集(2026/2)

**Call for interest : code review contracts by  
Oslandia for QGIS**

Please fill in the form below to candidate. For any question contact  
infos+qgis@oslandia.com

This is a call for interest by Oslandia for C++ developers having QGIS  
and/or Qt skills. We offer paid contracts for code reviews and  
contributions.

---

Beyond our own code reviews by Oslandia employees who contribute to  
QGIS, we want to set up direct code review contracts for developers in the  
community. The aim is to:

- respond to the high level of activity in terms of pull requests (by  
Oslandia contributors and others) and therefore the need for review
- encourage review efforts in general
- promote growth in the number of reviewers and, ultimately, core  
committers

Oslandia is therefore offering paid contracts for developers, aimed at:

First name\*

---

Last name\*

---

Organization\*

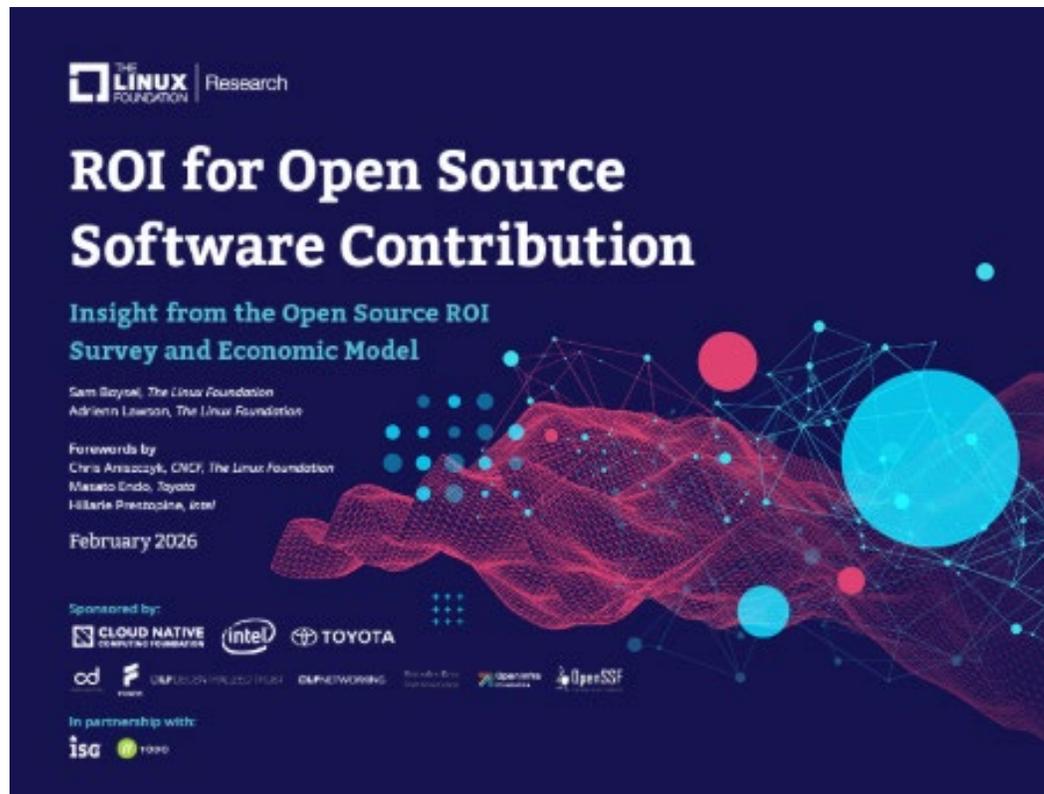
---

Email\*

---

# LF Research: ROI for Open Source Software Contribution

**OSS貢献の価値を数字で述べた最新の貴重な調査結果です。**  
OSS貢献を組織内で行う経営層や現場の理解を深めるために活用しましょう！



引用 : [Adrienn Lawson and Sam Boysel, "ROI for Open Source Software Contribution: Insight from the Open Source ROI Survey and Economic Model," forewords by Chris Aniszczyk, Hillarie Prestopine, and Masato Endo, The Linux Foundation, February 2026.](#)

付録

会場で行ったリアルタイムアンケートの  
回答結果

# わたしとOSS：OSSのどんなところに楽しさを感じていますか？

世界中の開発者とのコラボレーション

世界のだれかの役に立てる

ソースが見られる自由に使える

同じソフトウェアを作る、使う、広げる、グローバルなコミュニティー

同好の士ともフラットに話せる

自分から問題通知や機能改善を送れる(クローズドソースならいつ反映されるかも分からない)

機能が不足していても自分で追加できる、コミュニティーと一緒に開発できる

いろんなひとと議論しながらコントリビュートできる場所！

わたしとOSS：OSSのどんなところに楽しさを感じていますか？

ITと社会との接続

建設的

ソースで学べるところ。

# わたしと世界：あなたと世界（国際社会）との接点を教えてください

ossのL10Nしてます

じつは共通の課題や観  
点を持つ人はけっこう  
いる、というワクワク

あまり発信してないのでテ  
レビのニュースやネットの  
ポータルニュースを見る  
のが主でしょうか。生活で  
は世界の関係してる半導体  
やらなんやらにはお世話に  
なっていますが。。

OSSを作ってカンファ  
レンスに出ていって、  
色々な人達と話すのが  
面白い

GitHubで公開されてい  
るソフトウェアへの  
contribute

ほとんど繋がってない  
ですが、こどもがいろ  
んなYouTube見ていま  
す（それ何語なの？と  
突っ込みたくなる動画  
も見ています）

AI時代の悩みや脅威が  
共有できている

アジア地域カンファレ  
ンスの企画

# わたしと未来：これからわたしができそうなこと

評論してるだけでなく  
一歩進んだ貢献と社会  
実装を実践する

OSPOの勉強をしたい

(LLMなどと協調して)  
様々なOSSへの貢献や  
コミュニケーション

若い世代をレベルアッ  
プするためのお手伝い

同好会コミュニティか  
らの成長

OSS貢献手順、プロセ  
スの整備をして、JTCか  
らの貢献を増やす。

社内のOSSへの認識を変え  
たい、かも。OSS利用、開  
発はまあまあ浸透してい  
る、けど、コミュニティ貢  
献だけしてたらダメという  
上層部からの空気を感じ  
る。

OSSへの関わりを増や  
していきたい。